

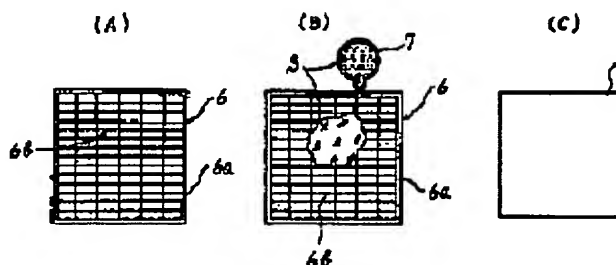
PLANTING OF SEEDS OR SPORES USING USED PAPER AND STRAINING METAL PLATE THEREFOR

Patent number: JP10066408
Publication date: 1998-03-10
Inventor: FUJIWARA TAKUMA
Applicant: FUJIWARA TAKUMA
Classification:
- international: A01C1/04; A01C7/00
- european:
Application number: JP19960241223 19960823
Priority number(s): JP19960241223 19960823

Report a data error here

Abstract of JP10066408

PROBLEM TO BE SOLVED: To realize the water retention, aseptic condition, inhibition of weed occurrence, supply of the organic fertilizer by decomposition of used paper absorbed in the soil in the germination and breeding of seeds or spores with light work by effectively utilizing waste paper such as newspaper and laying the paper on the soil of cultivation land. **SOLUTION:** After seeds or spores are sewed to the soil of cultivation land, an aqueous dispersion of waste paper S is coated to the soil surface of the cultivation land except the seeds, spores and seedlings, or paper sheets 1 prepared by straining the dispersion with a strainer 6 are laid and water is applied to the paper sheets thereby fixing them to the soil surface. These operations are repeated, when necessary, to persistently maintain the water retention and inhibition of weed occurrence and adjust the supply of the organic fertilizer.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-66408

(43) 公開日 平成10年(1998) 3月10日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 0 1 C 1/04	Z A B		A 0 1 C 1/04	Z A B A
7/00	Z A B		7/00	Z A B D

審査請求 未請求 請求項の数 7 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平8-241223

(22) 出願日 平成 8 年 (1996) 8 月 23 日

(71) 出願人 591192845

藤原 琢磨

神奈川県鎌倉市浄明寺 4-3-8

(72) 発明者 藤原 琢磨

神奈川県鎌倉市浄明寺 4-3-8

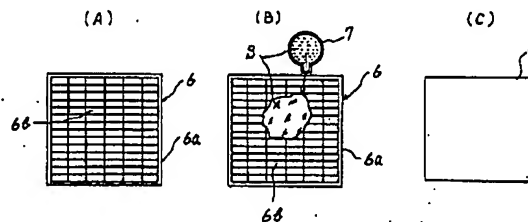
(74) 代理人 弁理士 齋藤 義雄

(54) 【発明の名称】 古紙を利用した種子または胞子の植え付け方法と植え付け用漉き延べ板

(57) 【要約】

【課題】 新聞紙などの古紙を有効利用して、これを耕作土壤に敷設することで、種子や胞子の発芽育成時における保水と無菌性の確保、雑草発生の抑止、土壤に吸収の古紙分解による有機肥料の補給を軽作業により実現可能とする。

【解決手段】 耕作土壤に種子または胞子を播与の後、当該種子、胞子、苗を除く耕作土壤面に対して、水による古紙の分散懸濁液 S を塗布するか、当該分散懸濁液 S を漉き具 6 に流入して乾燥することにより得た漉き延べ板 1 を敷き、これに敷き水を与えることで、この敷き延べ板 1 を耕作土壤面に定着させる。この方法は必要に応じ繰り返し行うようにし保水性と雑草発生の抑止力を継続し、有機肥料の補給量を調整することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 耕作土壌に種子または胞子を播与した後、当該種子、胞子、苗を除く耕作土壌面にあって、水による古紙の分散懸濁液を塗布し、または当該分散懸濁液を漉き具に流入して乾燥することにより得た漉き延べ板を敷き、これに敷き水を与えることにより定着させるようにしたことを特徴とする古紙を利用した種子または胞子の植え付け方法。

【請求項2】 水による古紙の分散懸濁液、漉き延べ板には、着色用の色素、肥料、農薬のうち、その一以上が添加されている請求項1記載の古紙を利用した種子または胞子の植え付け方法。

【請求項3】 水による古紙の分散懸濁液を、漉き具に流入して乾燥させた漉き延べ基板に、種子または胞子を所要配列により施した後、当該漉き延べ基板に、水による古紙の分散懸濁液を供与して、これを乾燥することにより前記の種子または胞子を被覆した漉き延べ包被板を形成して植え付け用漉き延べ板を得、この植え付け用漉き延べ板を耕作土壌面に敷き、これに敷き水を与えることにより定着させるようにしたことを特徴とする古紙を利用した種子または胞子の植え付け方法。

【請求項4】 植え付け用漉き延べ板には、漉き延べ基板、漉き延べ包被板の一方または双方の形成に際して、着色用の色素、肥料、農薬のうち、その一以上が添加されている請求項3記載の古紙を利用した種子または胞子の植え付け方法。

【請求項5】 水による古紙の分散懸濁液を、漉き具に流入して乾燥させた漉き延べ基板に、種子または胞子を所要配列により施した後、当該漉き延べ基板に、水による古紙の分散懸濁液を供与して、これを乾燥することにより前記の種子または胞子を被覆した漉き延べ包被板を形成して植え付け用漉き延べ板を得、この植え付け用漉き延べ板を耕作土壌面に敷き、これに敷き水を与えることにより定着させるようにし、その後随時上記の種子、胞子、苗を除く露呈した耕作土壌面にあって、水による古紙の分散懸濁液を塗布し、または当該分散懸濁液を漉き具に流入して乾燥することにより得た漉き延べ板を敷き、これに敷き水を与えることにより定着させるようにしたことを特徴とする古紙を利用した種子または胞子の植え付け方法。

【請求項6】 植え付け用漉き延べ板における漉き延べ基板、漉き延べ包被板の一方または双方の形成に際し、そして水による古紙の分散懸濁液、漉き延べ板には、着色用の色素、肥料、農薬のうち、その一以上が添加されている請求項5記載の古紙を利用した種子または胞子の植え付け方法。

【請求項7】 水による古紙の分散懸濁液を、漉き具に流入して乾燥させてなる漉き延べ基板と、この漉き延べ基板に所要配列により施された種子または胞子と、当該漉き延べ基板に、古紙の分散懸濁液を供与して乾燥

することにより、上記の種子または胞子を被覆した漉き延べ包被板とからなることを特徴とする植え付け用漉き延べ板。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は各種農作物の種子とか、苔、茸、羊歯そしてかびなどの胞子を、耕作土壌に播種したり植え付けるための方法と、当該方法の実施に用いることのできる植え付け用漉き延べ板に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の播種方法としては、乾燥された種子を予め布袋に封入しておき、これを購入したり保存しておき、適時土壌を耕作して、その上に種蒔きを行い、軽く土で覆うようにしている。

【0003】このため、上記従来の播種や胞子の植付け方法によるときは、種子等が望ましい間隔となるように、人為的な播種作業を行うようにしなければならず、しかも注意しても当該間隔が不揃いになってしまう嫌があり、さらに種子の深さとか、覆土の厚さにも十分な気配りが必要となり、水をどの程度供与すべきかの量を調整することも難事となる欠陥がある。

【0004】さらに、折角蒔かれた種子を鳥に食べられてしまったり、発芽時の保水や、無菌状態の保持、さらには所定期間雑草が生えることを押えることが望ましいが、これを抑制するには、必ずしも望ましくない除草剤の散布とか、人為的な除草作業に頼らねばならず、特に多忙であることから、大切な時期に雑草の発生が放任されてしまい、植物の望ましい生長が阻まれてしまうことにもなる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、上記の従来方法が有する諸問題に鑑み検討されたもので、請求項1にあっては従来通りの播種または植え付け方法を実行するのであるが、その後において、種子、胞子、苗などを除く耕作土壌面に、水による古紙の分散懸濁液を塗布したり、この分散懸濁液の所定厚さに乾燥して形成の漉き延べ板を敷設した後、敷き水を与えることにより定着させ、これによって発芽に必要な保水を無菌状態下で保有させると共に、雑草の不本意な生長を抑止することにより、望ましい種子、胞子の生長を促進させ、さらに化学肥料で痩せた土壌を、古紙の分解によって有機肥料化し、これを有効に利用し得るようにするのが、その目的である。

【0006】次に請求項2にあっては、上記の請求項1における分散懸濁液や漉き延べ板に対して、着色用の色素を加えることで、鳥害の予防効果や美感を保持させるようにしたり、各種肥料の添加により、苗等の生長を助長させ、また農薬の添加によって除草効果等を促進させようとしている。

【0007】請求項3の方法では、請求項1の如く、単

に古紙の分散懸濁液や漉き延べ板を用いるようにするのではなく、漉き延べ基板と漉き延べ包被板との間に、所要配列状態にて種子、胞子を配置させるようにした植え付け用漉き延べ板を用意し、これを耕作土壌面に敷き、これに敷き水を与えるようにすることで定着させるのである。このことによって、種子等を耕作土壌に押し入れたり、所定厚さの土を被せるといった作業をしなくともすみ、しかも種子等を人為的に所定間隔となるように調整するといった作業をも不要として、労せずして上記の所定間隔を保有させ得るようにし、さらに発芽時の保水、無菌状態の保持そして雑草発生の抑制についても満足すべき結果を得ると共に、前記の如く古紙による有機肥料を利用しようとしている。

【0008】請求項4では、上記の請求項3の実施に際し、漉き延べ基板と漉き延べ包被板の一方または双方に、色素、肥料、農薬のうち、その一以上を添加し、これにより請求項2について前説の諸効果をも発揮させようとしている。

【0009】請求項5にあっては、前記の請求項3に係る方法に加えて、さらに、随時種子、胞子、苗をさけて、当該耕作土壌面に水による古紙の分散懸濁液を塗布するか、漉き延べ板を敷いて敷き水を施すことで、請求項3による前記の作用と請求項1に基づく作用とを發揮させ得るようにし、請求項3による効果を、さらに助長しようとしている。

【0010】請求項6では、上記請求項5の実施に際し、漉き延べ基板、漉き延べ包被板の一方または双方、そして水による古紙の分散懸濁液、漉き延べ板に、色素、肥料、農薬のうち、その一以上を添加することで、請求項2、4について前説した諸効果の発揮をも、その付加的な目的としている。

【0011】請求項7では、上記の請求項3ないし請求項5の方法に係る発明を実施するため用い得る植え付け用漉き延べ板の構造に関し、種子、胞子を予め漉き延べ基板と漉き延べ包被板とによって、所定配列となるよう挟着状態として乾燥させておくようにし、これにより、種子等を高い信頼性をもって保存可能とするだけでなく、漉き延べ包被板の厚さなども、予め当該種子や胞子の種類に適合したものに設定することで、請求項3ないし請求項5に係る方法の実施を、簡易かつ迅速に行い得るようにするのが、その目的である。

【0012】

【課題を解決するための手段】本発明は、上記の目的を達成するため請求項1によるときは、耕作土壌に種子または胞子を播与した後、当該種子、胞子、苗を除く耕作土壌面にあって、水による古紙の分散懸濁液を塗布し、または当該分散懸濁液を漉き具に流入して乾燥することにより得た漉き延べ板を敷き、これに敷き水を与えることにより定着させるようにしたことを特徴とする古紙を利用した種子または胞子の植え付け方法を提供しようと

している。

【0013】そして、請求項2では請求項1にあって、水による古紙の分散懸濁液、漉き延べ板には、着色用の色素、肥料、農薬のうち、その一以上が添加されていることを、その内容としている。

【0014】請求項3に係る発明では、水による古紙の分散懸濁液を、漉き具に流入して乾燥させた漉き延べ基板上に、種子または胞子を所要配列により施した後、当該漉き延べ基板上に、水による古紙の分散懸濁液を供与して、これを乾燥することにより前記の種子または胞子を被覆した漉き延べ包被板を形成して植え付け用漉き延べ板を得、この植え付け用漉き延べ板を耕作土壌面に敷き、これに敷き水を与えることにより定着させるようにしたことを特徴とする古紙を利用した種子または胞子の植え付け方法を提供しようとしている。

【0015】請求項4では請求項3にあって、植え付け用漉き延べ板には、漉き延べ基板、漉き延べ包被板の一方または双方の形成に際して、着色用の色素、肥料、農薬のうち、その一以上が添加されていることを内容としている。

【0016】請求項5にあっては水による古紙の分散懸濁液を、漉き具に流入して乾燥させた漉き延べ基板上に、種子または胞子を所要配列により施した後、当該漉き延べ基板上に、水による古紙の分散懸濁液を供与して、これを乾燥することにより前記の種子または胞子を被覆した漉き延べ包被板を形成して植え付け用漉き延べ板を得、この植え付け用漉き延べ板を耕作土壌面に敷き、これに敷き水を与えることにより定着させるようにし、その後随時上記の種子、胞子、苗を除く露呈した耕作土壌面にあって、水による古紙の分散懸濁液を塗布し、または当該分散懸濁液を漉き具に流入して乾燥することにより得た漉き延べ板を敷き、これに敷き水を与えることにより定着させるようにしたことを特徴とする古紙を利用した種子または胞子の植え付け方法を提供しようとしている。

【0017】請求項6では、請求項5にあって、植え付け用漉き延べ板における漉き延べ基板、漉き延べ包被板の一方または双方の形成に際し、そして水による古紙の分散懸濁液、漉き延べ板には、着色用の色素、肥料、農薬のうち、その一以上が添加されていることを内容としている。

【0018】そして、請求項7にあっては水による古紙の分散懸濁液を、漉き具に流入して乾燥させてなる漉き延べ基板と、この漉き延べ基板上に所要配列により施された種子または胞子と、当該漉き延べ基板上に、古紙の分散懸濁液を供与して乾燥することにより、上記の種子または胞子を被覆した漉き延べ包被板とからなることを特徴とする植え付け用漉き延べ板を提供しようとしている。

【0019】

【発明の実施の形態】本発明に係る古紙を利用した種子または胞子の耕作土壌に対する植え付け方法を実施するため、後に詳記するように図1と図2に示す如く漉き延べ板1、そして図2に開示されているように漉き延べ基板2、漉き延べ包被板3、さらに植え付け用漉き延べ板4を形成することが必要となる。そこで先ず、これらの各板1ないし4をどのようにして形成するかに関し、以下図3に示す懸濁液製造装置5を用い、水による古紙の分散懸濁液Sを製造する方法につき説示する。

【0020】そこで、上記懸濁液製造装置5の構成について説示すると、これは基体5aと、これに水を流入することになる水道水などの給水源5bと、器体5a内に供与された水5cを攪拌することのできる攪拌器5dとを具備している。そして、器体5aの水5c内には、古新聞紙などによる古紙Pが投入され、この状態にあって、上記の攪拌器5dを移動して、その回転軸5eの下端に設けられている回転翼5fを回転させるのである。

【0021】上記のような懸濁液製造装置5の稼動により、器体5a内では、水5c内の古紙Pが回転翼5fによって破碎されていることで分散し、これにより水による古紙の分散懸濁液Sが得られることとなり、次いで、これを原材料として漉き延べ板1を形成することになるが、これには、通常の紙漉き技術と同様に、図1(A)に開示の漉き枠の如き漉き具6が用いられることになる。

【0022】上記漉き具6は、所望の大きさに形成した枠体6aと、これに箕子6bが落し込まれて、装脱自在なるよう係嵌されたもので、前記した水による古紙の分散懸濁液Sは、図1(B)の如き供給容器7を用いて、上記の箕子6b上にあって、その全面にわたり流し込み、水分を流下させ抜くと共に、乾燥させることで、数mm程度以下の漉き延べ板1を形成するのである。

【0023】この際、上記した水による古紙の分散懸濁液Sは、可及的に無菌状態となるよう水道水を用いるなどの留意を払うのが望ましく、かつ必要に応じて美感とか鳥害などを考慮して、着色用の色素を添加したり、耕作土壌の地質によって望ましい肥料とか、除草剤などの農薬につき選択的に添加するのがよい。

【0024】次に前掲植え付け用漉き延べ板4の製造方法につき説示すると、これは図2に示す通り漉き延べ基板2と、漉き延べ包被板3および種子または胞子SRとにより形成されている。そして上記漉き延べ基板2の製造方法は、図1によって説示した漉き延べ板1と全く同じであり、漉き延べ基板2上には図2(A)に明示の如く、種子または胞子SRを所要の配列となるように施し、この状態にて同図(B)のように、前記した供給容器7により、水による古紙の分散懸濁液Sを漉き延べ基板2上に流下して、これを乾燥することにより、上記の種子または胞子SRを被覆することとなる漉き延べ包被板3が形成されるのである。

【0025】このことによって、図2(C)に示した通り、種子または胞子SRが、漉き延べ基板2と漉き延べ包被板3との間に挟装された請求項7に係る植え付け用漉き延べ板4を得ることができる。そして、この場合にあっては、漉き延べ板1の製造方法において記載した如く、色素、肥料、農薬のうち一以上を、漉き延べ基板2、漉き延べ包被板3の一方または双方に含有させることができる。ここで、上記の漉き延べ板1や植え付け用漉き延べ板4については、製紙技術を利用して、長尺なものを製造し、これをロール状に巻装しておき、随時所定の長さにて切断して耕作土壌に対し敷設するようにしてもよい。

【0026】以下請求項1における古紙を利用した種子または胞子SRの植え付け方法につき詳記すると、ここでは先ず従来法と同じく種子または胞子を耕作土壌に対し、常法により播与し、従って種子または胞子に軽く土壌を被せるようにするが、その後、当該種子や胞子、あるいは発芽して生長した菌といったものを除いた耕作土壌面に対して、既に詳記した水による古紙の分散懸濁液Sを、所定の幅をもって塗布するか、これまた前説のように漉き具6を用いて形成した漉き延べ板1を敷くのである。そして当該後者敷装配置による場合にあっては、漉き延べ板1に敷き水を与えることにより、これを当該耕作土壌に対して定着させることになる。

【0027】上記請求項1の方法によるときは、従来の播種等に係る農作業の完了だけで済ませることなく、さらに水による古紙の分散懸濁液Sや漉き延べ板1を施す作業が追加されることになるが、これにより、大事な発芽時における保水性が改善されることになり、しかも、雑草の発生や生長も一定期間抑制し得ることになり、さらに、古紙が化学肥料で痩せた土壌内に吸収された後、分解して有機肥料となり、これが有効利用されることとなる。従って、必要に応じて、水による古紙の分散懸濁液Sや漉き延べ板1の付与を適時繰返せば、さらに望ましい結果が得られることとなる。

【0028】そして、上記の請求項1を実施するに際し、請求項2のように、水による古紙の分散懸濁液Sや漉き延べ板1に対して、前記の如く色素、肥料、農薬のうち、一以上を添加するようにすれば、耕作土壌を当該色素によって美化したり、種子または胞子SRが鳥などにより食べられてしまうことを防止することができ、また肥料を選定することで、苗などの生長を助長させたり、除草剤により雑草の発生を、より効果的に抑止させることも可能となる。

【0029】次に請求項3について以下詳記すると、ここでは上記従来からの如き種子蒔き作業等は行わずに、前記のようにして種子または胞子SRを漉き延べ基板2と漉き延べ包被板3との間に挟装した植え付け用漉き延べ板4を得た後、これを耕作土壌面に配装敷設し、さらに、その上から敷き水を与えることにより、当該植え付け用

流き延べ板4を、所定箇所にあつて定着させるのである。

【0030】この際、流き延べ基板2を耕作土壤に載置して、流き延べ包被板3を表出させるのであれば、当該流き延べ包被板3の厚さを、当該種子等の発芽力に適合するように予め0.5mm～3mm程度といったように、適切な寸法となるよう調整しておくことが望ましい。

【0031】従つて、上記請求項3の方法によるときは、従来の種子蒔き作業とは違って、植え付け用流き延べ板4を敷き並べた後、水をかけるだけの作業によって種子または孢子SRの播与作業が完了し、この種作業の労力を軽減し得ると共に作業向上でき、また植え付け用流き延べ板4として種子または孢子SRを保存できるので、無菌状態で保有につき、その信頼性が向上し、かつ病虫害からの保護という点でも、単なる袋入りの種子等に比し、よい結果が得られない。そして、請求項1に係る流き延べ板1による方法に比し、発芽時における保水性、雑草発生に対する抑制力も強化されることとなる。

【0032】上記の請求項3に係る方法の実施に際し、請求項4の如く、流き延べ基板2、流き延べ包被板3の一方または双方の形成に際し、色素、肥料、農薬のうち、その一以上を添加することができ、このことによって、前記の請求項2について記載した通りの作用、効果を付加させることが可能となる。

【0033】請求項5の方法では、前記の請求項3の方法と同様にして植え付け用流き延べ板4を耕作土壤面に敷き、敷き水を与えることにより定着させた後にあつて、当該植え付け用流き延べ板4が、耕作土壤に吸収されてしまった際など、適時、上記の種子、孢子、苗を除く露呈した耕作土壤面に対して、水による古紙の分散懸濁液Sを塗布したり、既述の流き延べ板1を敷き、これに敷き水を与えて定着させるようにするのである。

【0034】このことにより、請求項3の方法実施後にあつて、さらに請求項1における作業が追加されて行くことになるから、請求項3につき詳記した作用効果の発揮に加えて、請求項1について説示した作用効果が重畳されることになるから、その相乗的な作用によって、さらに発芽から育苗までにわたる保水性、雑草の生長抑制、古紙に基づく有機肥料の補給といった点で、より望ましい結果が得られることになる。

【0035】そして、請求項5の方法を実地する際、請求項6の如く、流き延べ基板2、流き延べ包被板3の一方または双方の形成に際し、そして水による古紙の分散懸濁液S、流き延べ板1に対して、前同様にして色素、肥料、農薬のうち、その一以上を添加するようにすれば、既に記載した通りの作用、効果を付加的に発揮させることとなる。

【0036】請求項7に係る植え付け用流き延べ板4に

ついては、既にその製造方法につき説示することにより、その構造についても明示した通り、流き延べ基板2と流き延べ包被板3との間に、所要配列となるよう種子または孢子SRを挟持したものであり、これを用いることにより、請求項3、請求項5に係る方法を実施し得ることになる。

【0037】

【発明の効果】本発明は以上説明のようにして実施または構成されるものであるから、請求項1の植え付け方法によるときは、従来作業の後に行う水による古紙の分散懸濁液の塗布や流き延べ板の敷設による耕作土壤への定着作業により、発芽、育苗に際しての無菌状態下の保水性、雑草発生の抑止、有機肥料の補給がなされることとなり、古紙を有効に活用して農作物や苔、茸、羊歯等の栽培に益するところ大である。

【0038】請求項2では請求項1の方法実施に際し、色素、肥料、農薬を選択的に付加するようにしたので、鳥害の予防、肥料の補給そして除草剤などによる雑草発生の抑止効果をも正すことが可能となる。

【0039】請求項3の方法にあつては、従来の如き播種作業を行う必要なく、植え付け用流き延べ板を耕作土壤に敷設して給水するだけの作業ですむことから、その作業能率を飛躍的に向上させることができ、種子または孢子の配列も労せずして均一化でき、もちろん請求項1の方法に比し、発芽時の保水、無菌状態の保持、雑草発生の抑制についても充分な効果をあげることができる。

【0040】請求項4の方法は、請求項3に植え付け用流き延べ板に色素、肥料、農薬のうち、その一以上を加えるようにしたので、前掲請求項2について説示したと同様な効果を付加することができる。

【0041】さらに、請求項5では、請求項3における方法だけでなく、請求項1における方法の主要部を付加するようにしたので、前説の請求項3に請求項1の効果を、さらに重畳することが可能となり所期の目的を達成することができる。

【0042】次に請求項6の方法では、上記請求項5の方法において、植え付け用流き延べ板と、水による古紙の分散懸濁液、流き延べ板に、前同様にして色素、肥料、農薬のうち、その一以上を添加するようにしたので、これまた請求項5の方法に、前記請求項2において説示した通りの効果を付加することができる。

【0043】そして、請求項7によるときは、種子または孢子を流き延べ板と流き延べ包被板により被覆してしまふようにしたから、これを耕作土壤に敷設し、敷き水を付与するようにした請求項3、請求項5の方法を、高い信頼性をもって実施することができ、また種子または孢子の保管や保存上も、これまでの包装袋によるものに比し、その信頼性を、より向上することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(A)(B)(C)は、請求項1に係る植え付

け方法を実施するのに用いられる濾き延べ板の製造工程を示す平面略示図である。

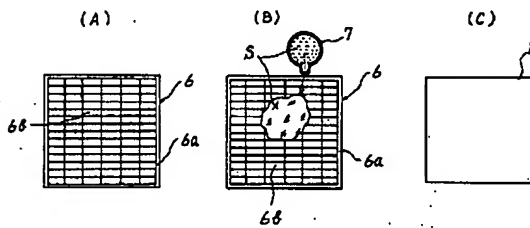
【図2】(A)(B)は、請求項3に係る植え付け方法を実施するのに用いられる植付け用濾き延べ板の製造工程を示す平面略示図で、(C)は同上植付け用濾き延べ板の縦断面図である。

【図3】前記濾き延べ板や植付け用濾き延べ板を製造するために用いられる水による古紙の分散懸濁液を製造するために用い得る懸濁液製造装置の縦断正面略示図である。

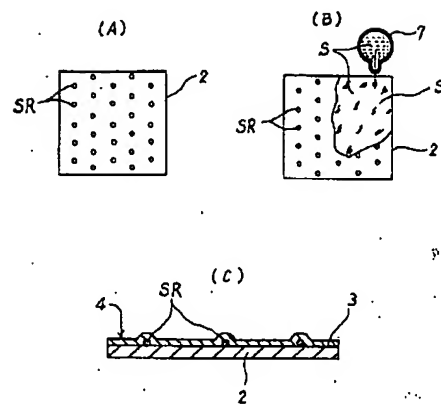
【符号の説明】

- 1 濾き延べ板
- 2 濾き延べ基板
- 3 濾き延べ包被板
- 4 植え付け用濾き延べ板
- 6 濾き具
- P 古紙
- S 水による古紙の分散懸濁液
- SR 種子または孢子

【図1】



【図2】



【図3】

